

平成17年11月15日

学術情報資源の安定確保に関する声明

国立大学図書館協会
会長 西郷 和彦

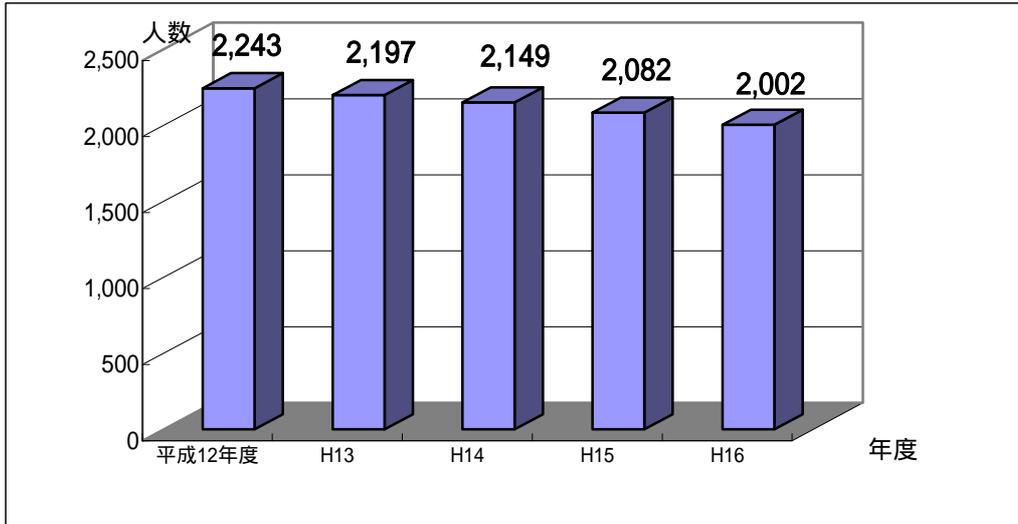
大学の使命は、人材の育成、知的・文化的価値の創出、創出価値の社会還元にあることはいうまでもない。人材の育成と知的・文化的価値の創出は大学の活動そのものであり、創出価値の社会還元は大学の活動の結果として当然の責務である。科学技術基本計画には、これら大学の使命達成を支援する多くの施策が提言されてきた。他方、大学の活動そのものである人材の育成、知的・文化的価値の創出は、過去のそして現在創出されつつある知的・文化的価値を効率的且つ網羅的に集積した学術情報資源なくして円滑に実施することはできないと言っても過言ではない。しかしながら、国立大学に於いては法人化に伴う効率的運営の結果として、学術情報資源確保・維持への財政投入が圧迫されつつある。このままの推移を考えると、大学の活動を支える基盤とも言うべき学術情報資源の国家規模での枯渇を招きかねない。

このような状況を鑑み国立大学図書館協会は、次期科学技術基本計画の策定にあたり、学術と社会の交差を図りつつ、国際的学術情報交流を果たすため、国家的戦略としての学術情報資源の確保・維持と強化にも配慮されることを切望する。

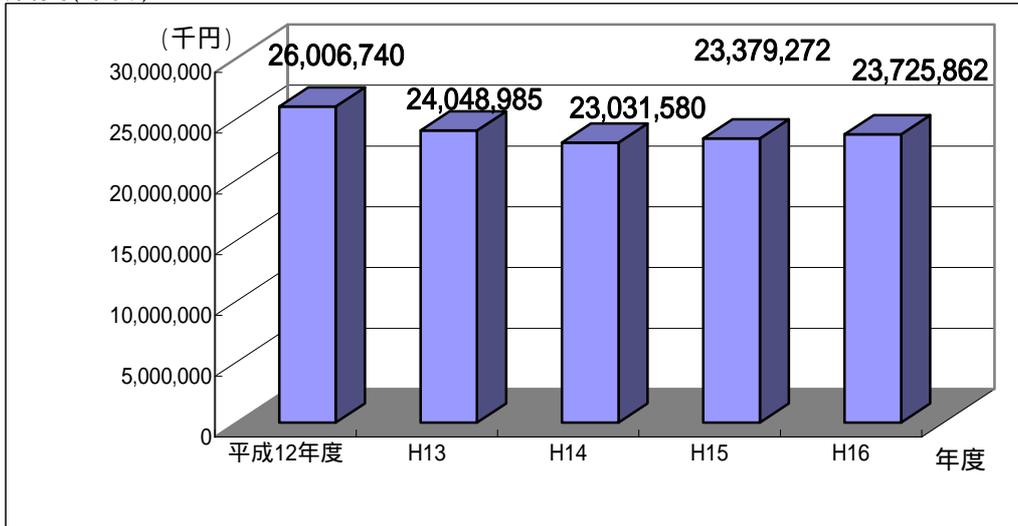
国立大学図書館の推移

(「大学図書館実態調査」より)

・図書館・室職員総数(専任)

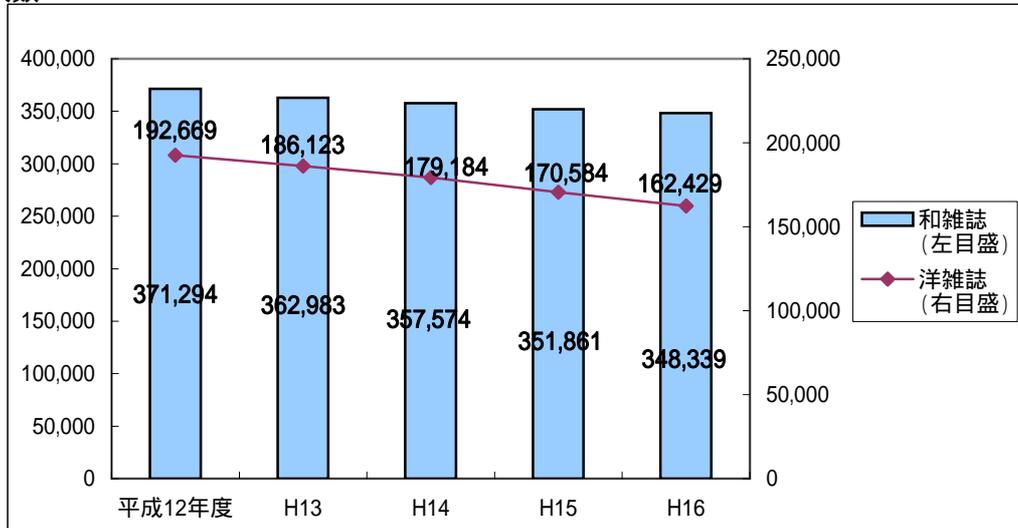


・図書館資料費(千円)



* 平成15、16年度の増加は、重点4分野における電子ジャーナル経費の配分による

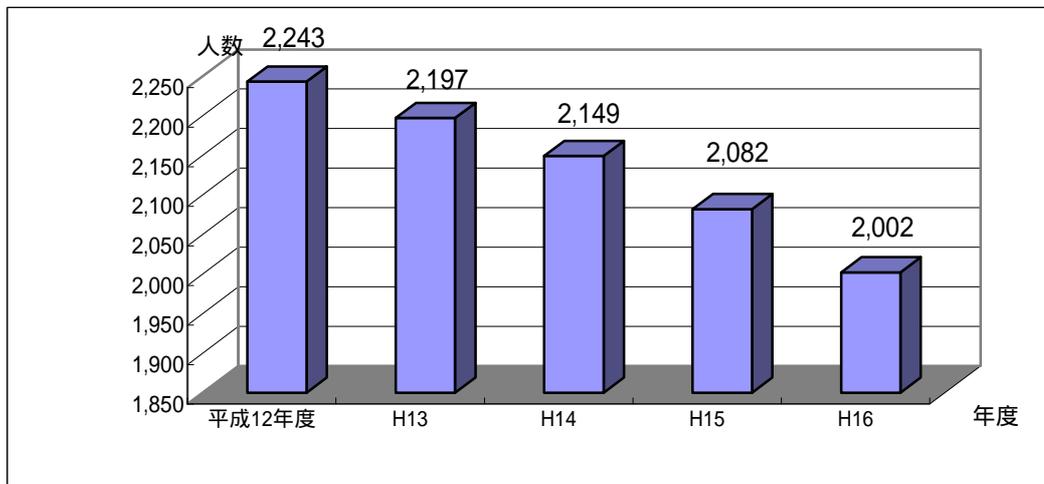
・雑誌受入数



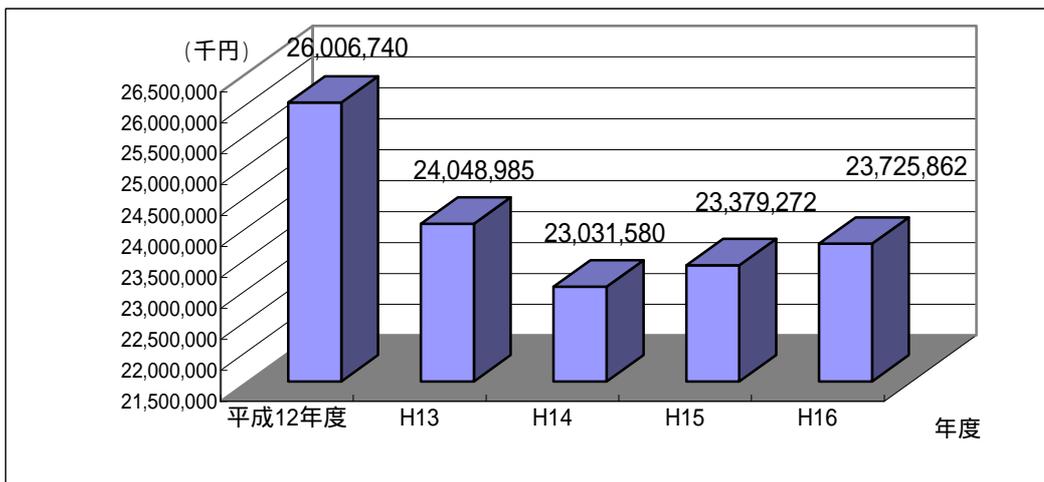
国立大学図書館の推移(抜粋版)

(「大学図書館実態調査」より)

・図書館・室職員総数(専任)

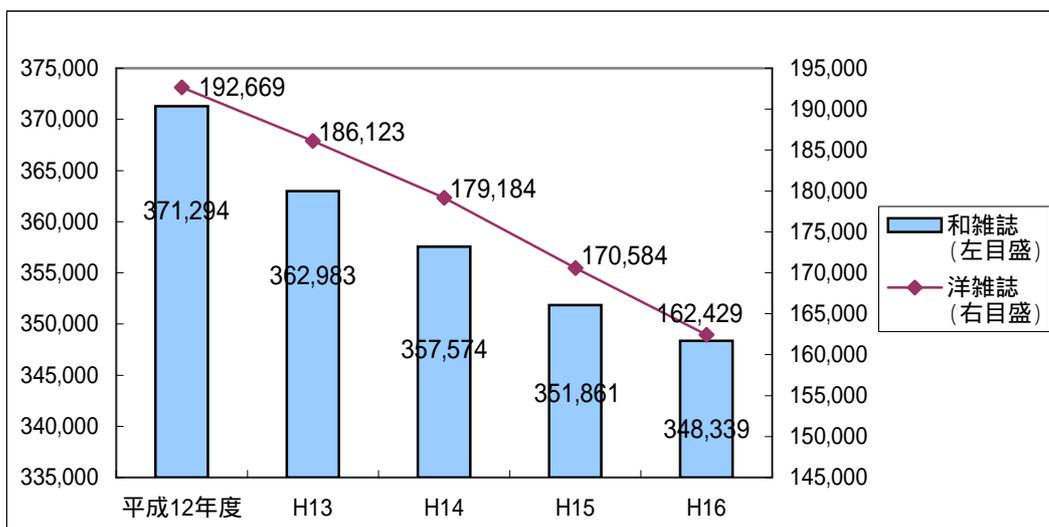


・図書館資料費(千円)

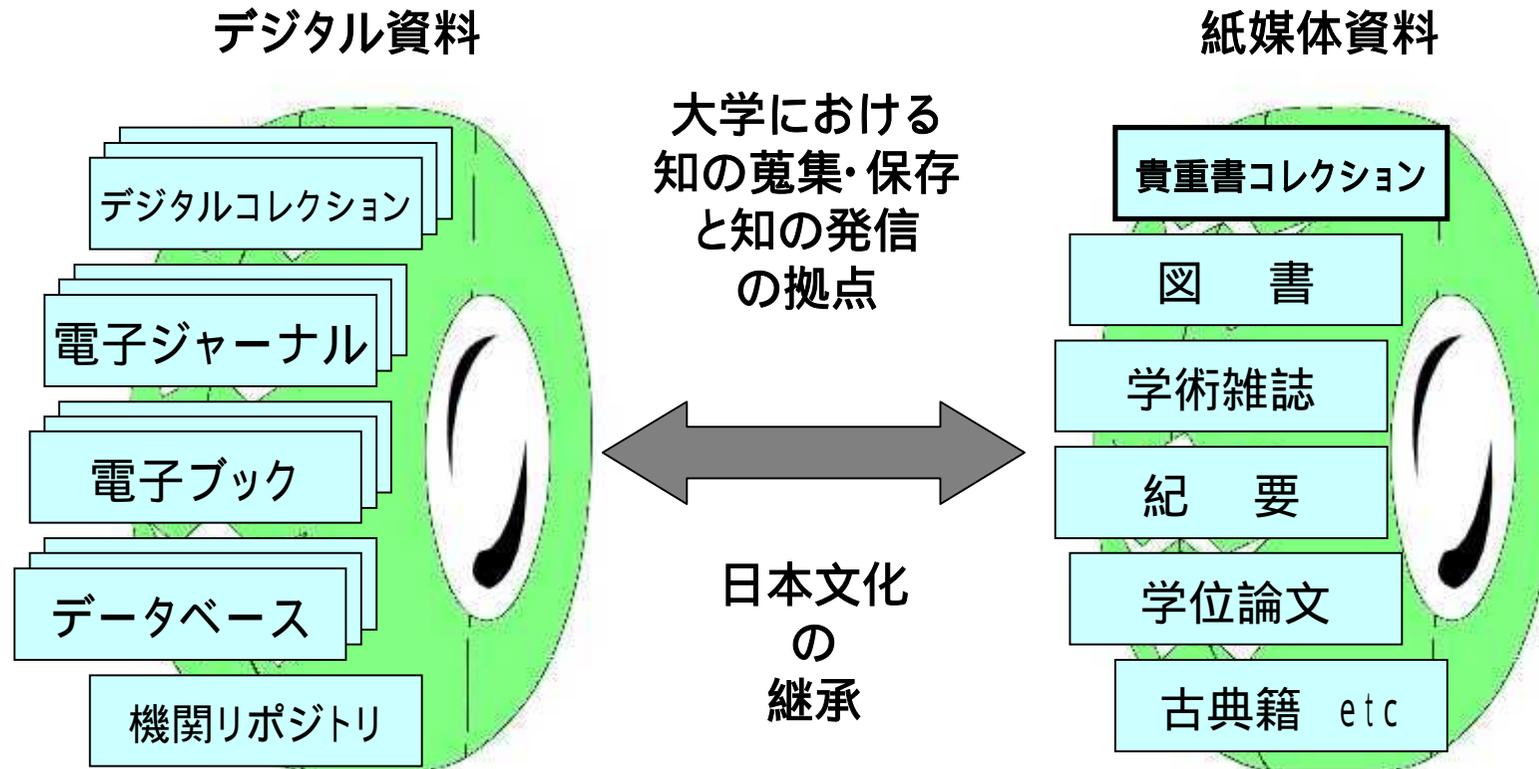


* 平成15、16年度の増加は、重点4分野における電子ジャーナル経費の配分による

・雑誌受入数



附属図書館の資料



学習・教育・研究・情報環境の充実強化